

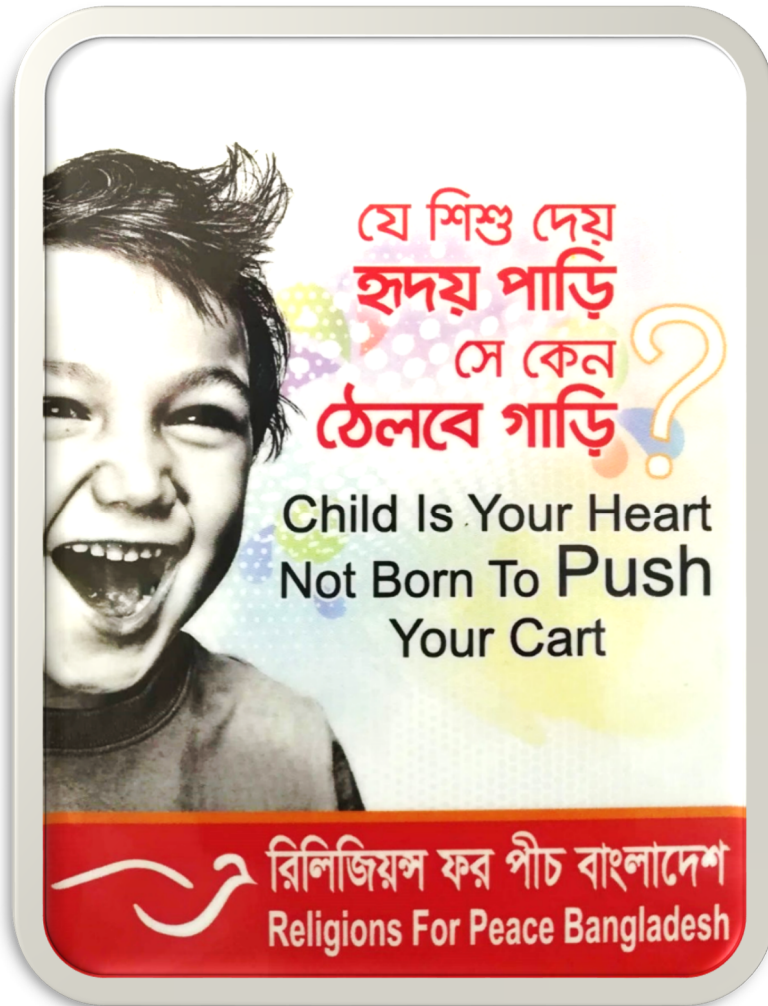


বাংলাদেশী কমিটি দ্বারা পরিচালিত

# ACRP ফ্ল্যাগশিপ প্রকল্প

*Protection of Children's Rights and Advancing Their Well-being*

স্থানীয় পরিদর্শন প্রতিবেদন



2019年6月26日～7月1日までバングラデシュを訪問し、RfPバングラデシュ委員会が主催するフラッグシッププロジェクトを視察してきました。以下、視察内容をご報告いたします。

| 項目      | 内容   |
|---------|--|
| 1. 出張者  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・神谷昌道(シニアアドバイザー)</li> <li>・吉田達也 ・出射見奈子</li> </ul>   |
| 2. 期間   | ・2019年6月26日(水)～7月1日(月)／計6日間  |
| 3. 訪問国  | ・バングラデシュ人民共和国  |
| 4. 訪問先  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・Prabartak Square, Chattogram: Children Rally</li> <li>・Prabartak Samgha Auditorium, Chattogram: Discussion Meeting of Awareness Building</li> <li>・Chittagong Commonwealth War Cemetery, Chattogram</li> <li>・The Chittagong Catholic Archdiocese, Chattogram</li> <li>・Rissho Kosei-Kai Bangladesh, Chattogram</li> </ul> |
| 5. 受入先  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・RfP Bangladesh</li> <li>・RK Bangladesh</li> </ul>  |
| 5. 出張目的 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・RfPバングラデシュ委員会により実施されるフラッグシッププロジェクト(Children First in South Asia: A Case Study of The Protection of Children's Rights and Advancing Their Well-being in Bangladesh)の初回会合への参加および視察</li> <li>・RfPバングラデシュメンバーとの交流</li> </ul>   |

## 7. 経緯

本年、フラッグシッププロジェクトの1つとして、児童が危険で有害な労働に従事していることがたびたび問題となってきたバングラデシュにおいて、現地委員会による「南アジアにおける児童ファースト：児童の権利擁護および福祉推進に関する事例研究」を掲げる本プロジェクトが採択され、任意団体ACRPより活動資金として7,000ドルが拠出された。

計画の初期段階から携わってきた神谷シニアアドバイザーが現地訪問の申し出をしたことから、今回出張の運びとなった。なお、吉田・出射の両名は現地委員会メンバーとの関係構築や現地委員会の現況を学ぶ意味で、神谷アドバイザーに随行することとなった。

## 8. 視察内容

### (1) Children Rally



6月28日(金)午前9時過ぎ、チャットグラム(旧名：チッタゴン)のPrabartak Squareに到着した。雨季でありながら、ほとんど雨が降っておらず、交通量の多いこの目抜き通りは車が通るたびに土埃が立ち上っていた。

そこに制服姿の児童・生徒 100人以上はいたと思われるが、彼らが自分達世代の置かれている窮状と、それらを止めるよう促すプラカードを手に、強い日差しの中を行き交う車や人々に無言で訴えかけていた。その人数と迫力は圧巻であり、本プロジェクトの準備を進めてきた方達の思いの強さを感じさせられた。



行き交う人々に訴えかける

RfP バングラデシュ女性委員会委員長活動の趣旨を通行人に丁寧に語りかける様子。チッタゴン大学の教授を務めているが、幼少期は貧しく、プラカードを掲げる子ども達と同様の境遇であったという。

### (2) Discussion Meeting of Awareness Building

6月28日、午前10時30分。Children Rallyの現場から程近いPrabartak Samghaと呼ばれる学校施設に会場を移し、セミナーが開催された。



開式に先立ち、子ども達が歓迎の歌や民族舞踊を披露し、セミナーに花を添えてくれた。

① プロジェクト主催側による本プロジェクトの説明の後、神谷アドバイザーからの基調講演が始まった。

神谷師からは ACRP 及びフラッグシッププロジェクトに関する説明、子ども達は未来における希望であること、我々大人たちは子ども達から学ぶことが必要であること、またその例示として、若き日にフィリピンを訪れ、そこで出逢った子ども達から、経済的豊かさのみが人生の質を決めるのではないと学んだことへの言及があり、最後に本プロジェクトを成功させる決意を述べられた。

② 会議の予定時間は 1 時間 30 分であり、登壇者の持ち時間は非常に短かったが、そうした中、興味深いスピーチをした方がいたので、その点にも触れておきたい。

1 人は、イタリアから来た修道士であり、Pathashishu Seva Sangathan という団体に属している人物であった。登壇すると、腹の底から響き渡るようなベンガル語で話を始めた。日本語や英語は通訳が入ったが、ベンガル語話者には通訳が付かず、内容は正確に分からなかったが、ジェスチャーや聴衆の反応・盛り上がりなどからスピーチの主意を推測してみる。

以下；「皆さん、本日の集会は危険な児童労働や児童婚、児童の人身売買や性的搾取などを止め子どもの権利や福祉を向上させようという趣旨の集まりでしょうか？もしそうなら、なぜ子どもの話を聞かず、私たち大人たちが一方的に話し続けるのですか？なぜ暑い屋外に子ども達があんなに沢山いるのですか？子ども達を室内に呼び入れたほうが良いとは思いませんか？（聴衆が拍手で応える）君達、中に入っておきなさい！（会場の外にいた 25 人くらいの男子児童が入ってくる）」という具合であった。



Pathashishu Seva Sangathan の修道士（中央）



修道士に促され会場に入ってきた子どもたち

子どもだけでなく参加している関係者にも強く響いている様子。外国人でありながら現地語で語りかける。言葉は分からないが、本気で子ども達と彼らを取り巻く問題に取り組んでいるであろうことは強く感じられた。

2人目は、ACRP 東京事務局の出射 見奈子氏である。前日まで話す内容に迷っていたようであったが、聴衆を前にして「この世の中には誰一人として必要のない人などいません。誰もが、必要とされてこの世に生まれてきた尊い存在、尊厳そのものなのです。」との魂の叫びにも似た力強い言えるメッセージを堂々と伝えていた。



命の尊厳について聴衆に訴える出射氏と傍らで通訳する RK バングラデシュ総務部長

3人目は、同じく ACRP 東京事務局の吉田達也氏である。自身の幼い頃の経験を通して、教育を受けることの必要性を語った。また、夢を持つことの大切さについても触れ、教育は人生をより良いものにするために必要であると、聴衆の子どもやおとな達へ訴えていた。



自身の経験を通して教育の大切さを訴える吉田氏  
(通訳者：RK バングラデシュ総務部長)

登壇者へ盾を贈呈、最後に主催者による閉式の辞をもって、セミナーは幕を閉じた。



会場に集まってきてくださった方々の数には驚かされた。子どもたちの教育などを支援する 3 つの団体の子どもや保護者などが参加していたという。約 2 時間の講演に、休憩もとらず熱心に耳を傾けてくださっていた。

(3) その他

① RfP バングラデシュ執行委員へのオブザーブ参加



6月28日午後5時、我々は幸運にも、年に一度だけ開催される RfP バングラデシュの EC 会議へオブザーバーとして参加する機会を得た。本で行われたようなラリーやセミナーを国内 5 つの地域支部において実施していくこと、多くの NGO が子どものために取り組んで折り、そうした人々とも連携を図っていくこと、児童保護や人権に関する法律はあるがそれらが遵守されるよう政府や民間にアピールしていくこと、自分達の国の課題を率先して取り組んでいき、1つのモデルとしてアジアの他の地域にも発信していきたい旨の発言などがなされた。

また、組織充実を目指してメンバーシップを拡充していくことなどが話し合われ、概ね了承を得られていた模様である。



## ② The Chittagong Catholic Archdiocese への訪問

6月29日10時ごろ、カトリック大司教区を訪問し、神父と面会した。神父からはチッタゴンにキリスト教が伝来してきた経緯や、少数派としていままで迫害に遭ってきた歴史など様々な内容が語られた。

RfP バングラデシュ委員の一人から、自身の言葉で自身の想いとして RfP の理念・理想を語る姿を見て、創設者たちの願いが年代や国を越えて引き継がれている様子に感銘を受けた。



## ② Rissho Kosei-Kai Bangladesh への訪問

6月29日、11時30分頃、大司教区を後にした一行は、今回全体的に受け入れの労をとってくださった立正佼成会バングラデシュ教会を訪問。施設見学と共に、情報や意見交換な



どが行われた。その中で印象的だったことは以下の2点であった。

(イ) RfP バングラデシュメンバーには、大学で哲学を教えている者もいる。その際に、学生たちに仏教について尋ねると、ほとんど反応がないか、あるいは表層的な理解しかなされていなく感じる。そんな中、少しでも仏教に関心があると話す学生に出会った場合は、迷うことなく立正佼成会を訪ねるように勧めてきた、と仰っており、ご自身はムスリムでありながら、仏教教団である立正佼成会のことを理解し、人にも勧めてくださっていたという点に、この方は表面的ではなく本当に相手の宗教やその活動などをしっかり理解して交流しておられるのだと感じたこと。

(ロ) そんな教授を感心させていたように思うのが、立正佼成会が教義研修や頭の上の理解では終わらせず、「教えを生活の中で活かす」「日常の中で実践する」という点であったように感じた。日本を離れ、釈尊生誕の地に近いバングラデシュという国において若い現地人布教者たちの手によって教えの種が蒔かれ、現実にも人を救う力となっているのだということに彼らの話から感じさせられた。



バングラデシュ教会の皆さん

## 9. おわりに

今回の現地視察により以下の点が明らかになった。

RfP バングラデシュには、ダッカ・チッタゴンだけでなく、ミャンマーとの国境に程近いコックスバザール、山間部のランガマティ、カグラチョリなど6つの地域委員会が存在し、イスラム教・仏教のみならずカトリックやプロテスタントなどの諸宗教、ベンガル人のみならずミャンマー系の少数民族、宗教だけでなく医師や保健省の官僚など専門性の異なるメンバーにより構成されていた。

それら地域委員会メンバーらが相互交流し活発に活動を行い立正佼成会バングラデシュの教会長をはじめ教会総務部長や渉外部長、そして堅実な推進者であったバングラデシュ前教会長らによる全面的なサポートのもとで着実に実施していく体制が構築されていた。これらの点は、東京事務所にはなかなか感じ取りづらいものであると痛感した。

また、本プロジェクトを実施するにあたり、神谷アドバイザーが幾度となくこの地に足を運び、現地委員会の人々と丁寧に信頼関係を醸成し、プロジェクトを共に作り上げてきたということもよく理解できた。

今回、我々が現地訪問をするにあたり、様々な面でサポートして下さった関係者の皆様に深く御礼申し上げます。

以上

(報告者：吉田 達也)